小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 松涛会	代表者	斎藤 妙子	法人・	・複合施設になっていて他部署との協力体制ができている。・安岡病院、山の田内科が協力病院として緊急時等の受診などの連携ができている。・施設内は家庭の延長線としての雰囲気がそのまま活かされるようにし、不安や心配				
事業所名	小規模多機能 フロイデ金比羅	管理者	野村 恵美	事業所 の特徴	事を訴えてくる利用者様には、個別に対応をしている。 ・利用者本位の柔軟な対応に心掛け、緊急な泊りなど家族の要望の受け入れをしている。				

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センタ	z —	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
山师有			2人		1人		1人			5人 人	9)
項	〔目	前回の改善計画		前回の改善計画に対する取組み・結果		意見		今回の改善計画			
A. 事業所自 確認	目己評価の	きを置き、業務を通し 度全職員で把握・分析 んで行く。又、職員の るが日々の業務や毎月 外部研修(WEB研修な	出来ていない項目に重 して解決が出来る様、都 行・振り返りをし取り組 う意識やレベルの差もあ 目行っている勉強会 ど)も活用し個々がステ な、スキルやケアの向上	出来ていない所 取り組み、都度 職員個々でも毎 自己学習や毎月 知識を学びスキ	は少しでも改善出振り返りも行った 振り返りも行った 年個人で作成して 実施している勉強	いる研修計画に沿い 会などから新たな いる。学んだ事は	・利用 ³	ている事がわかり ていないと回答し 欲しい。	、職員間の情報共有に ます。今後もほとんど た人をなくす努力は続 には、職員の自己啓発 ないですね。	都度振り返りを行う 理解し達成に向ける 又、自己学習や毎月 WEB研修も活用し職	8や毎日のミーテイングを通し う。各項目の改善計画を個々が 全職員で取り組んで行く。 引実施している勉強会だけでなく 員一人一人のスキルアップを図 上に繋げて行く。
B. 事業所の しつらえ		ルールを遵守する	を運転する際は交通 る。時間帯によって 万の歩行者もある為、	は安全運転に努	る。 その右折禁止も表記	守っている。送迎時 を付けている。 があり、利用者家族	• コロー	ナ渦のため、施設	内へ入る機会があま わかりかねる所があ	遵守し、来苑した利用してもらう。 ・季節にあった飾り付け	時の事業所周辺の交通ルールを 日者家族などにも説明し周知を けなど、利用者に楽しみをもっ 也の良い空間作りを行っていく。
C. 事業所と かかわり	_ / ·	交流が出来る様に 進会議や地域密着 域と協力し行事を 引き続き近隣住員 など、現状ででき との関係性を深め して行く。	Rと会った際の挨拶 さる事を探して地域 かられるよう努力を	に規制があり運 しく地域の地域 その為、継続し、 った。継続し、 際はこち行事で ショで地域 範囲で地域	顔を合わせる機会協力しての行事開通勤時等近隣住民 挨拶をする様に心 は金比羅宮に初詣 で活用をするよう	委員会の開催も難が少なかった。 催には至らなかと会う機会があるがけ、レクリエーに行くなど出来るにした。	コン間を 地コ ル は 考域ロ ・ ル コ 角 催 日 に イ に 日 に 日 に 日 に 日 に 日 に 日 に 日 に 日 に	や会議の開催は難 少しずつ動いとい えていかないとい 住民の意見 ナウイルスもあり は難しいと思いま	、イベント等の参加	以前の様に地域の や地域密着委員会 情報交換を行い地 の開催に向け取り ・感染対策に気をご 資源の活用を継続 を目指して行く。	つけながら日々の挨拶や地域 売し、地域に根付いた事業所
D. 地域に出 本人の著 支える耶	暮らしを	流が出来る様にな 議や地域密着委員 力し行事を開催し 地域密着委員会で ムページの活用な	が収束し、外部との交合 はでは運営推進と協 はで行く。 での金比羅連信やホークで など、エキャーク など、エキャークで など、エキャーク など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークで など、エキャークを	委員会の開催も は至らなかった 地域密着委員会 を活用し地域の 毎月発行してい	難しく地域と協力。 での金比羅通信(方に閲覧してもらいる小規模通信にお	、運営会議や地域 しての行事開催に 広報誌)は回覧板 っている。 いては、家族が遠方 えない方もおり利用	・送サきこった場とですが機	ごスでの様子を伝え す。行事があった日 が多く、感染には気 幾会が増えると良い 回括支援センターの		以前の様に地域の や地域密着委員会 情報交換を行い地 の開催に向け取り ・継続し、ホームへ	○規制も緩和されて来ている。 ○方を交えて運営推進会議 会の開催が出来た際には 也域のイベントへの参加、行事 ○組んで行く。 ページの活用・広報誌を通じ

	-			
B. 事業所の しつらえ・環境	・今後も施設周辺を運転する際は交通 ルールを遵守する。時間帯によって は子供や年配の方の歩行者もある為、 特に注意をする。	・継続し、施設周辺の交通ルールを守っている。送迎時 は安全運転に努め、通勤時等も気を付けている。 施設から出る際の右折禁止も表記があり、利用者家族 も来苑時に守っている。	*地域住民の意見 ・コロナ渦のため、施設内へ入る機会があま りないのでしつらえ等わかりかねる所があ る。	・今後も通勤時や送迎時の事業所周辺の交通ルールを 遵守し、来苑した利用者家族などにも説明し周知を してもらう。・季節にあった飾り付けなど、利用者に楽しみをもっ てもらいながら居心地の良い空間作りを行っていく。
C. 事業所と地域の かかわり	・コロナウイルスが収束し、外部との 交流が出来る様になった時は運営推 進会議や地域密着委員会を活用し地 域と協力し行事を開催して行く。 引き続き近隣住民と会った際の挨拶 など、現状でできる事を探して地域 との関係性を深められるよう努力を して行く。	・新型コロナウイルス感染予防の為、施設への出入りに規制があり運営推進会議・地域委員会の開催も難しく地域の方と顔を合わせる機会が少なかった。その為、地域と協力しての行事開催には至らなかった。継続し、通勤時等近隣住民と会う機会がある際はこちらから挨拶をする様に心がけ、レクリエーションや行事では金比羅宮に初詣に行くなど出来る範囲で地域資源の活用をするようにした。	*事業所職員の意見 コロナウイルスの急激な感染拡大時はイベントや会議の開催は難しいと思います。世間は少しずつ動いてきています。出来る事を考えていかないといけない。 *地域住民の意見 コロナウイルスもあり、イベント等の参加開催は難しいと思います。	・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。 以前の様に地域の方を交えて運営推進会議 や地域密着委員会の開催が出来た際には 情報交換を行い地域のイベントへの参加、行事 の開催に向け取り組んで行く。・感染対策に気をつけながら日々の挨拶や地域 資源の活用を継続し、地域に根付いた事業所 を目指して行く。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	・コロナウイルスが収束し、外部との交流が出来る様になった時は運営推進会議や地域密着委員会を活用し地域と協力し行事を開催して行く。地域密着委員会での金比羅通信やホームページの活用など、コロナ禍であっても出来る情報発信・新たなアピールの仕方も探して行く。	・新型コロナウイルス感染予防の為、運営会議や地域 委員会の開催も難しく地域と協力しての行事開催に は至らなかった。 地域密着委員会での金比羅通信(広報誌)は回覧板 を活用し地域の方に閲覧してもらっている。 毎月発行している小規模通信においては、家族が遠方 であったりコロナ渦でなかなか会えない方もおり利用 者の様子がわかり喜ばれていた。	*利用者家族の意見 ・送迎時に家での様子を聞いてくれたり、デイサービスでの様子を伝えてくれるので安心できます。行事があった日には楽しそうに話すことが多く、感染には気をつけながらそういった機会が増えると良いと思います。 *地域包括支援センターの意見メールや広報誌を使用し、家族と情報交換が出来ているのが理解できた。	・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。 以前の様に地域の方を交えて運営推進会議 や地域密着委員会の開催が出来た際には 情報交換を行い地域のイベントへの参加、行事 の開催に向け取り組んで行く。 ・継続し、ホームページの活用・広報誌を通じ 地域の方や家族へ情報発信をして行き地域と の関係性の構築に努める。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	・コロナウイルスが収束し、外部との交流が 出来る様になった時は運営推進会議や地域 密着委員会を活用し地域と協力し行事を開 催して行く。引き続き近隣住民に会った際 の挨拶など、現状でできる事を行い地域に 必要とされる事業所を目指して行く。	・新型コロナウイルス感染予防の為、運営会議や地域 委員会の開催も難しく地域と協力しての行事開催に は至らなかった。 近隣住民に会った際の挨拶は継続して行い、地域との 関係性が切れないようにしている。	*事業所職員の意見 ・フロイデ金比羅内の連携に努め、複合型施設 の良さを活用して下さい。 コロナ渦ですが、挨拶の積み重ねが事業所を 知ってもらうきっかけになったりいろいろな 形で展開していくこともあります。今出来る 小さな事をじっくり続けて下さい。	・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。 会議や委員会だけでなく回覧板やインターネット なども活用し情報収集を行うようにする。 感染状況に応じ、地域のイベントへの参加、協同 での行事開催に向け取り組んで行く。 又、地域の方への挨拶や広報誌の作成も継続し事 業所を知ってもらう努力をして行く。
F. 事業所の 防災・災害対策	・コロナウイルスが収束し、外部との交流が 出来る様になった時は運営推進会議や地域 密着委員会、回覧板を活用し避難訓練など イベントへの参加を呼びかけて行く。 引き続き近隣住民に会った際の挨拶など、 今できる事を継続し地域住民とコミュニ ケーションを取って行く。	・新型コロナウイルス感染予防の為、施設への 出入りも規制があり、地域の方の避難訓練や 行事への参加は出来なかった。 コロナ渦であるが、継続し近隣住民の方への 挨拶やレクリエーションなどを通し地域へ出 向く様心がけた。	*地域住民の意見 ・コロナ渦ではありますが、いろいろ努力を されている事がわかります。 状況が落ち着けば、また交流が出来るのでは ないでしょうか。	・コロナウイルスの規制も緩和されて来ている。 今後も感染状況に応じ、避難訓練や行事など地域 へ参加の呼びかけをして行く。 地域の方への挨拶等、現状で出来る事を継続して 行い、話しやすい・頼みやすい関係づくりをする事 で地域との良好な協力体制を目指して行く。